

こなん水辺公園ニュース

2009年9月号(通算第3号)

こなん水辺公園解説員グループ編集

大浦小学校「河北潟水辺の小学校」

9月15日に地元の大浦小学校の5年生が河北潟の水辺環境について理解を深めるために、徒歩で河北潟周辺の3カ所を見てまわりました。こなん水辺公園がその中のひとつの場所となっており、公園解説員グループから高橋久解説員が講師として、公園内の生き物体験のお手伝いをしました。

大浦小学校の5年生は3クラス約110名ですので、子供たちはクラスごとの3つのグループに分かれて、3カ所をそれぞれ時間をずらしてまわりました。こなん水辺公園では、説明を受けた後、約30分間水辺の生き物探しをしました。

メダカやトウヨシノボリ、キンブナ、ドンコといった魚の他、ウシガエル、クサガメ、アメリカザリガニ、ヌマエビ、ミズムシ、マシジミ、ヒメタニシなどが捕獲されました。

その他の場所としては、大宮川の河口では透視度計やパックテストによる水質調査をおこないました。また、大浦排水機場では干拓のしくみについて説明を聞き、排水の施設を見学しました。



ミズアオイその後

5月に管理学習棟裏の水路に移植したミズアオイが美しい花を咲かせています。もともと河北潟に面した津幡の水路に生育していたものから種子を採取して、こなん水辺公園の敷地内で殖やしたのですが、水路に苗を移植したものがうまく成長して小規模ながら見栄えのある群

落となっています。河北潟のミズアオイは花は小柄ですが色が濃いのが特徴で、瑠璃色の花びらは、秋空によく映えます。見頃はあと1週間ほどです。

この群落は、管理棟の管理人さんたちの協力があって維持されています。今のところこの水路には水源からの水の供給がないため、時々バケツやホースでの給水をおこなっていただきました。

先日は、NHK テレビがこの群落の撮影に訪れ、夕方のニュースでさわやかな映像が流れていました。ニュースを見た人たちが大勢、ミズアオイを見るためにこなん水辺公園を訪れました。



10月11日に水路維持作戦をおこないます

来年にミズアオイ群落を増やすため、現在ミズアオイが生育している水路の上流側の溝掘りと、チクゴスズメノヒエの除草活動ををおこないます。あわせてこなん水辺公園内の外来植物の学習会と除去作業をおこないます。

現在、こなん水辺公園には、北米原産のチクゴスズメノヒエが水辺に多く繁茂していて、通路脇の草地には同じく北米原産のセイタカアワダチソウが繁茂しております。また草刈りをした後に、やはり北米原産のワルナスビが広がりつつあります。鋭いとげのある毒草です。かつての河北潟の水辺の再現を目指す公園として、まず手始めに外来植物には退散願おうという企画です。

学習会及び作業には、一般参加者大歓迎です。汚れても良い格好で、朝9:00に管理学習棟前にお集まりください。おおよそ午前中の活動となります。



9月の生きもの情報 (管理学習棟エントランスホワイトボードから)

9月の生きもの情報

- バンヤカイツブリ、ハクセキレイが親子いっしょにいる姿が見られました。
- ササゴイ、チュウヒ、ミサゴ、カッコウ、アオサギ、カルガモ、オナガ、モズなどが見られました。

アメリカザリガニがいました。

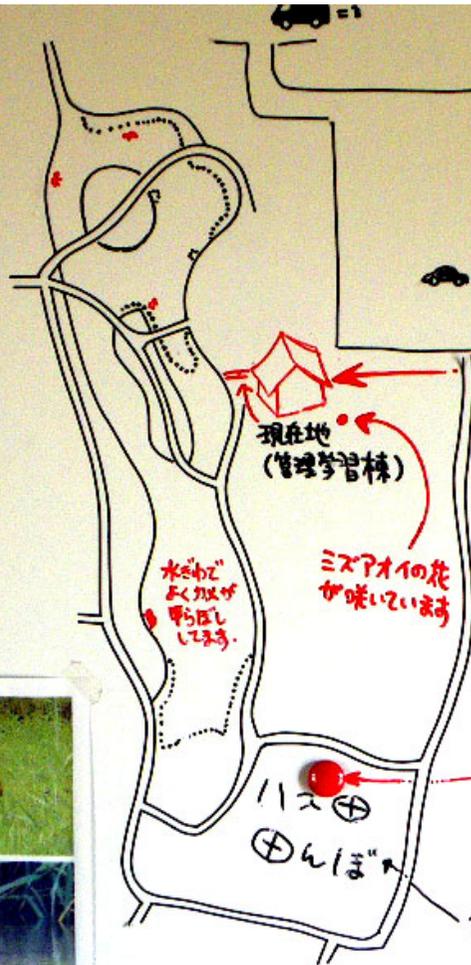


キジバト

カルガモ



バン



甲らばしする アカミガハ (09.5.24)



ミズアオイ

河北潟周辺で絶滅が危惧されている植物が鉢植えされています。



←ミズアオイにあるヒツジクサの花です。お盆ころ花が開きます。

ハスの実

よくハス田にカルガモがいます。ハスの実を食べているようです。



ハスの花は少しだけ咲いています。



ミズアオイ水路にある生きもの

発行 2009年9月26日
 制作 こなん水辺公園解説員グループ (NPO 法人河北潟湖沼研究所内)
 連絡先 〒金沢市二口町ハ58 河北潟湖沼研究所 TEL.076-261-6951